



デア ハーフエン Der Hafen

Nr. 70
2024年4月-6月

ソビエト連邦/ロシアという国への一考察(4)

横浜日独協会会長 成川 哲夫

(1) 日本への帰国

1991年10月私は6年半のドイツ駐在を終え日本へ帰国した。91年10月に悲願の東西ドイツ統合を成し遂げたドイツを去るのは後ろ髪を引かれる思いであったが、「日本は確実に金融危機に向かう。日本でやるべき仕事がある。」と当時のドイツ興銀社長のH氏に背中を押されて帰国し、企業やプロジェクト分析を行う審査部(企業調査部)に復帰した。日本では90年の初めに始まったバブル崩壊によって引き起こされた企業の不良債権の急増は、いわゆるバランスシート調整によって金融機関を追い込みつつあり、金融危機は既に始まっていた。

(2) ロシアとの債務交渉

一方で、ロシアとの債務交渉は、1992年から1997年にかけて行われ、私も西側金融団とロシア側の交渉に参加したが、債務交渉は困難を極めた。ロシアはソ連の対外資産と金準備を引き継ぐ代わりにその全債務を引き受けることを承諾したが、その狙いはソ連の後継者として世界に広がる大使館や、国連での地位をどうしても承継したいと考えたからである。1991年のソ連崩壊後ロシアは対外債務700億ドルの履行責任を負ったが、債務の大半はペレストロイカ(改革)で民主化が推進された85年から91年に生じ、その履行は90年代に財政圧迫要因となっていた。

(3) 債務交渉の合意

債務交渉は難航したが、最終的には1997年4月に合意が成立した。主要な合意内容は以下の通りである。①ロシアは1998年までに約300億ドルの債務を返済する。②金融団はロシアの債務の約45%を免除する。③金融団はロシアに対する新規融資を再開する。④ロシアは経済改革と民主化の継続を約束する。

この合意はロシアにとって債務負担を大幅に軽減し、国際金融市場への復帰を意味するものだった。金融団は最終的にロシアの信用力を回復させ、債権回収の可能性を高め、西側諸国とロシアとの経済協力と政治対話を深めることが必要と判断した。しかし、結局この合意は長期的な解決にはならなかった。その後ロシアは深刻な経済問題に直面し、98年8月にはデフォルト(債務不履行)に陥った。この危機は世界的な金融不安を引き起こしたが、皮肉なことに自由化を睨んだ西側企業からの技術支援による石油天然ガス生産量の増加と更に2000年代初頭の世界的なエネルギー価格の高騰により、ロシア経済は復興を遂げることになる。

(4) IMB の設立と旧興銀の参加

一方で国際金融界では、ロシアをめぐる新しい動きがみられた。ロシアで西側銀行への門戸が開かれ、数多くの銀行がモスクワへの進出を試みた。1989年10月、欧州の銀行4行がロシアと合併でモスクワに International Moscow Bank(IMB)を設立した。



当時のモスクワの
International Moscow Bank

これはロシアの民主化と自由主義経済化の中で、西側企業の活動を支援する目的で設立された。出資銀行はフィンランドのMerita、ドイツのHypoVereins、イタリアのBCI、オランダのRabobankであった。95年11月、旧興銀もIMBに出資、これは邦銀としては初のロシアの銀行への出資であった。西側銀行が各12%の6割のシェアを持ち、ロシア側は4割で、ロシアでの西側民間銀行の活動は初めてであった。私は出資を主導した当時の黒澤頭取から意見を求められたが、「ロシアの民主化、自由化は極めて困難で、再びロシアはソ連とは違った形の強権体制に戻る可能性が高い。西側銀行の市場としては期待できない。」と否定的な意見を述べた。黒澤頭取には、民主化、自由化したロシアが欧州と一体となったユーラシアの更なる発展への大きな期待があったのだろう。しかし残念ながら私の予測の方が正しかったと言える。

私が1997年にドイツ興銀社長としてフランクフルトに着任すると、それまで本店国際本部長が兼務していたIMBの非常勤取締役のポストを引き継ぐこととなり、月一回の取締役会のためにフランクフルトとモスクワを往復することになった。私の着任時、IMBの頭取はMerita銀行出身者であり、ロシアもNATO非加盟国フィンランド出身のトップを認めたのだ。しかしフィンランドこそ、ロシアとの激しい紛争を通じて最もロシアを警戒している国である。だからこそ、ロシアのウクライナ侵攻後直ちにNATO加盟を決断したのだ。旧興銀のIMBへの出資は、ロシア市場へのアクセス拡大と日本企業の支援を目指した試みであり、経済的な橋渡しの役割を果たすことが期待されたが、政治的な不安定さや経済環境の変動性、文化的な違い等、多くの障壁によりその目的は達成されなかった。旧興銀の試みは、新興市場、特に政治的・経済的に不安定な地域におけるビジネスの難しさを示している。特にロシア市場の潜在性を追求しようとした苦い経験は、強権国家への将来の国際投資におけるリスク評価や戦略立案の貴重な教訓と言えよう。(続)

「クレメンス・フォン・ゲッツェ 駐日ドイツ連邦共和国大使

による講演を拝聴して」



Stefan Buchenberger

神奈川大学

24. Januar, 2024

Vortrag S. E. des Botschafters der Bundesrepublik Deutschland, Dr. Clemens von Goetze zum Thema: Die Zusammenarbeit zwischen Deutschland und Japan im Kontext der aktuellen internationalen Lage.

Nach einem kurzen Rückblick auf die Geschichte der mehr als 160-jährigen Partnerschaft zwischen Deutschland und Japan mit all ihren Höhen und Tiefen, betonte der Botschafter die werteorientierte Politik der Bundesrepublik mit den UN, der EU, den G7 und der NATO als zentrale Bezugsrahmen. Japan als Mitglied der UN und der G7 Teil dieser wertebasierten Ordnung kommt hierbei unter Deutschlands außereuropäischen Partnern eine besondere Rolle zu, um die Herausforderungen der Gegenwart und der Zukunft gemeinsam zu meistern. Bundeskanzler Scholz wählte 2022 deshalb auch bewusst Japan als Ziel seiner ersten Asienreise, was 2023 zu bilateralen Regierungskonsultationen in Tokyo führte.

Zu diesen Herausforderungen gehören eine verstärkte wirtschaftliche Resilienz bzw. Wirtschaftssicherheit verbunden mit dem Schutz globaler Lieferketten, v.a. in zukunftsrelevanten Bereichen.

Eng verknüpft mit diesen wirtschaftlichen Problemfeldern sind es sicherheitspolitische Herausforderungen, sowohl in Europa als auch in Asien, die eine verstärkte Zusammenarbeit der demokratischen Staaten unerlässlich machen. Der Botschafter nannte hierbei den völkerrechtswidrigen Angriff Russlands auf die Ukraine, den Krieg im Nahen Osten, die andauernden Raketentest der DVRKorea und die veränderte strategische Position der VRChina. Hier betonte der Botschafter die unveränderte Unterstützung der Ukraine und Israels, verknüpft mit der Forderung des besseren Schutzes der palästinensischen Zivilbevölkerung, sowie eine friedliche und einvernehmliche Lösung der Taiwan-Frage. China sei aber nicht nur systemischer Rivale, sondern auch Partner bei globalen Herausforderungen wie der Klimakrise.

Neben den multilateralen Beziehungen, in die sowohl Japan als auch die Bundesrepublik einbezogen sind, gibt es auch starke bilaterale Beziehungen zwischen beiden Ländern in sicherheitspolitischen Bereichen, in wirtschaftlichen Bereichen, in Bereichen der angestrebten Klimaneutralität und beim kulturellen Austausch.

ステファン ブッヘンベルゲル

神奈川大学

2024年1月24日

**クレメンス・フォン・ゲッツェ
駐日ドイツ連邦共和国大使による講演会
「現在の国際情勢を踏まえた日独の連携」**

日独両国の160年以上にわたる起伏に富んだパートナーシップの歴史について簡単に振り返った後、大使は国連、EU、G7、NATOを中心とした枠組みの中でのドイツ連邦共和国の価値観重視の政策を強調しました。国連とG7のメンバーである日本は、この価値観に基づく秩序の一部であり、現在と未来の課題を克服する上で、ドイツの非ヨーロッパ圏のパートナーの中で特別な役割を担っています。そのため、シヨルツ首相は2022年の最初のアジア訪問の目的地にあえて日本を選び、2023年には東京での二国間政府間協議に繋がりました。

これらの課題の中には、特に将来の重要な分野のグローバル・サプライ・チェーンの保護に結びついた経済力、言い換えると経済安全保障の強化があります。

こうした経済的な問題領域と密接に関連しているのが、ヨーロッパとアジアの両方における安全保障政策の課題であり、民主主義国家間の協力強化が不可欠となっています。大使は、国際法に違反するロシアのウクライナ攻撃、中東での戦争、ミサイル発射実験を続ける北朝鮮、そして中国の戦略的立場の変化について言及しました。ここで大使は、ウクライナとイスラエルへの変わらぬ支援と、それに関連してパレスチナの人保護の状況改善の必要性、ならびに台湾問題の平和的かつ受け入れ可能な解決を強調しました。しかし、中国は体制的なライバルであるだけでなく、気候変動危機のような世界的な課題においてはパートナーでもあります。

日独両国が関係する多国間関係に加え、安全保障政策、経済、カーボンニュートラル、文化交流などの分野では、両国間には強い相互関係があります。

Symbolisch für die engen Beziehungen beider Länder steht die Stadt Yokohama: als Sitz der deutschen Schule und von rund 40 deutschen Firmen, sowie ihrer Partnerschaft mit Frankfurt am Main und ihrer Hafenpartnerschaft mit Hamburg.

Nach einem positiven Ausblick auf die zukünftige Zusammenarbeit und Entwicklung beider Länder nahm sich der Botschafter noch die Zeit, um einige Fragen aus dem Publikum zu beantworten. Sinnbildlich für die Zukunft der deutsch-japanischen Beziehungen fragte ein Student der Kanagawa-Universität nach Studien- und Arbeitsmöglichkeiten in Deutschland.

横浜市にはドイツ人学校や約40のドイツ企業の拠点があり、フランクフルトとのパートナーシップ、およびハンブルクとの港湾パートナーシップなど、日独両国の緊密な関係を象徴しています。

両国の今後の協力と発展について楽観的な展望を述べた後、大使は参加者からの質問に答える時間を取って下さいました。日独関係の将来を象徴するかのよう、神奈川大学の学生からはドイツへの留学や就職の可能性についての質問がありました。

(日訳 大堀聡)



ベアーテ・フォン・デア・オステン
通訳課長



クレメンス・フォン・ゲッツェ
駐日ドイツ連邦共和国大使



ゼーンケ・グロートフォーゼン
一等書記官 文化課長





認定NPO法人 横浜日独協会主催講演会

演題：「池坊いけばなとその歴史」

講師： 風間こずえ

(池坊東京清祥会支部長・池坊中央委員)

開催日時：2024年5月18日(土) 15時

場所：技能文化会館 8階大会議室(関内)

JR 根岸線[関内駅]南口から徒歩 5分

横浜市営地下鉄ブルーライン [伊勢佐木長者町駅]出口2から徒歩 3分



日本の伝統文化であるいけばなは、華道とも呼ばれ長い歴史があります。明治時代頃から女性の物というイメージが定着してきましたが、それ以前は主に男性がたしなむものでした。また、堅苦しくきまりごとが多いと思われていますが、もともとは暮らしと共に発展してきた生活文化です。いけばなは華道という「道」の側面を持つため、それを極めることは厳しい世界があります。

華道の起源である池坊のある京都六角堂頂法寺は、587年に聖徳太子が創建し(法隆寺の建立は607年)、遣隋使として中国大陸に渡った小野妹子が帰国後、初代住職をつとめたお寺です。朝夕仏前に花を供えました。仏教では仏に供えるものとして花、香、灯があり、日本に仏教が伝来したと同時にこれらの風習も流入しました。仏をきれいに荘厳にしたいという気持ちと日本人の季節感、死生観を加え、花の本数、種類を増やしていったと考えられます。そこから、花瓶に花を挿すことからいけばなという日本固有の文化に発展していきました。花の美しさや、花を供えるという行為だけでなく、命の本質を見極める日本的な感性や思想に基づいていけられています。



講師紹介

- 1981年より池坊いけばな、茶道表千家の修行を始める。
- 2006年より小豆澤伝統文化子供教室(文化庁採択)、その後さらに寺子屋事業により子供たちを指導
- 2012年 ベルリンヒルデガルトウェグシャイダ高校でいけばな指導
- 2014年 光学機器の国際会議で立花を披露し、アメリカNASAの博士達にいけばな指導

現在では、花の指導をしつつ、薬師寺東京別院、大塚天祖神社への献花を続ける一方、様々な華展などで作品を発表し、池坊いけばなの伝統継承に躍進している。

*2022年11月21日に開催された「横浜日独協会10周年記念大茶会」において、玄関の立花他、各部屋の床の間にいけばなを生けて頂きました。

申し込み：締め切り2024年5月15日(水) 会員以外の方もご参加いただけます。参加費 1000円

下記 URL からお申し込みください。(4月21日以降)

<https://ws.formzu.net/dist/S88344053/>



お問い合わせ：事務局 080-7807-7236 soohori3901-samart@yahoo.co.jp (大堀)

文化委員会企画

関西・四国方面への旅

文化委員会ではこの度、横浜日独協会で初めての宿泊を伴う小旅行を計画しました。

コロナ禍で実現の機会が持てなかったのですが、会員の中で以前から話題になっておりました第一次世界大戦で捕虜となったドイツ兵約1,000人の収容所跡、徳島県鳴門を訪ねてみようと思います。ここはベートーベン第9交響曲の本邦初演地としても知られています。

新幹線で新横浜から京都に行き、祇園で舞妓の舞を鑑賞、神戸で神戸日独協会との交流を予定しています。帰りは飛行機で、徳島空港から羽田へ帰ります。会員限定で25名まで受け付けます。ふるってご参加ください。



(鳴門市ドイツ館)

【日 時】 7月2日(火)～3日(水) 1泊2日

【目的地】 京都・神戸・徳島

【日 程】

- 7月2日 新幹線で新横浜から京都へ
(祇園の茶屋で舞妓の舞を鑑賞)
16時過ぎ、神戸に移動
(神戸日独協会との懇親会)
- 7月3日 バスで徳島県鳴門市へ移動
(所要約2時間、淡路SAで休憩)
鳴門市ドイツ館、坂東俘虜収容所跡、
徳島市阿波おどり会館等見学
17時過ぎ、徳島空港から飛行機にて羽田空港へ。19時頃着

【申込み締切】 4月30日(火)

【申込み・問い合わせ先】

naomint2013@gmail.com 中尾尚未 文化副委員長まで

- ・申し込みの際に、宿泊ホテルのシングルかツインの希望をお知らせください。
- ・参加ご希望の方には、詳しい日程表や費用をお知らせします。なお参加者の人数により費用が変動する為、お知らせできるのは概算になります。

フランクフルト独日協会よりの派遣学生

～ミュンヘン大学 トーマス・ハルテルさん～

コロナ禍で中止されていましたがフランクフルト独日協会からの作文コンテスト受賞者派遣が再開され、ミュンヘン大学生トーマス・ハルテルさんが、来る4月10日～13日まで横浜に滞在することとなりました。彼は高校生時代に作文コンテストで優秀者として選考されましたが、事業中止期間に大学生となり、当会でも初めての大学生受け入れとなります。彼の作文は、日本語訳をつけてホームページにアップ致します。皆様ご覧いただき、横浜への訪問を歓迎致しましょう。

(高校生作文コンテスト委員会：佐藤恵美)

(一財) アジア・ユーラシア総合研究所 第5回日独研究フォーラム (Jdgy 後援)

日 時： 2024年4月9日(火) 15時～16時45分
形 式： オンライン(ズーム方式)

第5回フォーラムのテーマ：『激動の世界で日本は
ドイツとどのように協力していくか?』

基調講演： 駐日ドイツ大使 クレメンス・フォン・
ゲツツェ博士 (Dr. Clemens von Goetze)

演 題：『現在の国際情勢を踏まえた日独の連携』
(使用語ドイツ語、通訳付きで60分の予定)

参加申込：(一財) アジア・ユーラシア総合研究所 HP より

主催
ア研
ドイツと日本
Zukunft gestalten
ともに未来へ

第5回日独研究フォーラム
(ズーム方式、通訳付き)

2024年4月9日 火曜日 15:00 - 16:45

テーマ 激動の世界で日本はドイツとどのように協力していくか?
基調講演： 駐日ドイツ大使
クレメンス・フォン・ゲツツェ博士
(Dr. Clemens von Goetze) 元駐イスラエル大使
元駐中国大使

演 題：『現在の国際情勢を踏まえた日独の連携』
(使用言語ドイツ語、日本語通訳付きで合計60分の予定)

質疑応答 : オンライン参加者から(通訳付きで30分の予定)
開会挨拶&総括 : 評議員・日独研究フォーラム座長
早瀬 勇 (元金沢星稜大学学長)
司 会 : 顧問 狩谷 求 (駿河台大学名誉教授)

2024 4/9 一般財団法人アジア・ユーラシア総合研究所
TEL&FAX: (03)5413-8912
住所: 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷1-1-12
桜美林大学千駄ヶ谷キャンパス1階
後援: 全国日独協会連合会(申請中)・認定NPO法人横浜日独協会

「これであなともバイエルン通」

スザンネ・シーロック氏の講演を聴いて

副会長 大瀬 克博

2月17日の月例会は、バイエルン州駐日代表部・シーロック代表の講演でした。バイエルン州7行政管区の特徴、魅力につき紹介されました。

スザンネ・シーロック氏

アウグスブルク大学卒 経営学専攻

SAKI EUROPE GMBH オフィスマネジャー

バイエルン州経済省 INVEST IN BAVARIA

2022年9月～ 現職



1. バイエルン州とは

- ・州都 ミュンヘン ・人口 1320万人
- ・GDP 92€/人 ・失業率 3.4% (ドイツ平均 5.7%)
- ・7つの行政区 2056市町村、71郡
- ・ビール醸造所：ドイツ全体の42%が同州

2. 行政管区ハイライト

(1) オーバーバイエルン (府省ミュンヘン)

- ・特徴：テクノロジーとイノベーション、伝統とモダン(レーダーホーゼとラップトップ)
- ・名物料理：ヴァイスヴルスト、プレッツェルなど
- ・観光名所：ニンフェンブルク宮殿、ヴィース教会、キーム湖、ドイツ最高峰ツークシュピッツェ、ヴァイエンシュテファン(世界最古ビール醸造)、ハラタウ(世界最大ホップ産地)
- ・姉妹都市：ミュンヘン・札幌市、ローゼンハイム・市川市 など

(2) シュヴァーベン (府省アウクスブルク)

- ・特徴：繊維産業から革新スタートアップ産業、世界最古の社会福祉施設フッゲライ
- ・名物料理：マウルタッシェンなど
- ・観光名所：ノイシュバンシュタイン城、ボーデン湖
- ・姉妹都市：アウクスブルク・千葉市、フュッセン・沼田市 など



(3) ミッテルフランケン (府省アンスバッハ)

- ・特徴：歴史的魅力と産業イノベーション
- ・名物料理：ニュルンベルクソーセージなど
- ・観光名所：ニュルンベルク・クリスマスマーケット、ローテンブルク
- ・姉妹都市：ローテンブルク・愛媛県内子町、ノイシュタット・滋賀県日野町



(4) ウンターフランケン (府省ヴェルツブルク)

- ・特徴：美しいブドウ畑とワイン
- ・名物料理：フランケンワイン、ホースラデッシュ
- ・観光名所：マリーエンブルク、司教館、アルテマイン橋
- ・姉妹都市：ヴェルツブルク・大津市



(5) オーバーフランケン (府省バイロイト)

- ・特徴：高い産業密度(ヨーロッパ2位)
- ・名物料理：シュラッペンビール、結婚式スープ
- ・観光名所：フランケンの森、バイロイト
- ・姉妹都市：バンベルク・長岡市

(6) オーバーファルツ (府省レーゲンスブルク)

- ・特徴：歴史的遺産、IT産業
- ・名物料理：世界最古ソーセージ
- ・観光名所：世界遺産・レーゲンスブルク旧市街、ヴァルハラ神殿

(7) ニーダーバイエルン (府省ランツフート)

- ・特徴：バイエルン穀倉地帯、歴史遺産
- ・名物料理：シュバイネブラーテン
- ・観光名所：パッサウ市街、バイエルンの森
- ・姉妹都市：パッサウ・秋田市
マインブルク・守谷市

ビアホールで「知らない人とも一緒に楽しむバイエルンの人」、シーロック代表の言葉が印象的でした。これがバイエルンのゲミュートリッヒカイト「温かい楽しさ」です。

霧笛楼でクリスマス会

理事 中尾 尚未

今回のクリスマス会は、いつもと違ってプロの演奏を楽しむことができる企画でした。

はじめに司会の南雲副会長から、ゲストの神奈川大学の熊学長、東京大学名誉教授の伊藤亜人氏の紹介の後、成川会長から、滞在されていた近々のドイツ事情のお話を頂きました。



宴の始まりは、メゾソプラノ歌手の栗田真帆さんと、ピアニストの小滝翔平さんの演奏で、乾杯の前に3曲披露してくださいました。ショパンのピアノ練習曲で「別れの歌」といわれる説明とともに、のびやかな美しい声にうっとりしました。ブラームスの曲を挟んで、ドイツでクリスマスには欠かせないタンネンバウムの歌です。初めて聞く編曲のもので、ドイツの深い森にそびえる荘厳な樅ノ木をイメージすることができました。華やかなイタリアオペラも聞いてみたいという気持ちを残しながら、それぞれに飲み物が配られました。



そこで、乾杯のご挨拶をされる大瀬副会長は、栗田さんの声を聴いて、以前ドイツの音楽を聴くために「Alte Liebe」に通っていたこととお話になりました。そこで歌っていた方の声をここで聞くことができ、今日は本当に来てよかったと、おっしゃいました。大瀬さんが、ゆっくりとお話になる音楽へのパーソナルなお気持ちを聞いて、人の気持ちに寄り添う歌声や音楽のすばらしさを改めて感じることができました。

お食事は、デザートまで、霧笛楼シェフのこだわりを感じられる美味しさで、テーブルセッティングや食器の美しさ、丁寧に給仕して下さる方たちの気配りも感じられて心地よく、テーブルごとの会話も弾んでいるようで、あちこちで笑い声も聞かれました。

宴たけなわ、菊川瑛子会員による謡とお仕舞が始まりますと、つやのある声に皆さんは、会話を止めて聞き入っていました。演目は「半葎」で、源氏物語の夕顔の巻、夕顔の霊が花に紛れ夏行の僧に現れ、その甲いを受け、光源氏と契った昔を語るもので、お仕舞には、扇に夕顔の花を渡す場面がありました。

恒例の向井理事によるクイズ問題では、皆さん真剣な面持ちで、ひっかけ問題に一喜一憂し、悩んだり考えたりと楽しい雰囲気でした。

最後に栗田真帆さんの誘導で、3つのグループに分けて輪唱したり、英語とドイツ語でクリスマスソングを歌ったりしてクリスマス会を満喫しました。

法人会員の文芸社の瓜谷社長から、令和記念コインのプレゼントがあり、皆さん笑顔で受け取って、あたたかい気持ちで宴を閉じました。

百人一首かるた会

理事 中尾 尚未

文化委員会では、このところ、リモートで先生の講義を聞いておりましたので、実際に集まる機会は久しぶりで、4年ぶりになります。



1月10日かながわ県民センター会議室でかるた会をいたしました。寺澤先生が、百人一首かるたを数種類持ってきてくださったので、その豪華な様子や色遣いの美しさを目の当たりにして、お正月気分を感じることができました。

寒い時期で参加者は少なかったのですが、和気あいあいと、寺澤先生が美しい声で読まれる読み札を聞きながら競い合いました。

休憩の時間にいつも通り、コーヒーを注文し、お菓子をいただきながらお話に花が咲きました。4年前までは普通だったことが、ここ数年間は気軽に会って話をする機会も減っていたことを改めて感じ、時間が過ぎたことを再認識するひと時でした。

しかし、リモート講義の良い点もありました。横浜で実際に講義を受けていた時は、いろいろなご事情で欠席者も多かったのですが、リモート講義では、自宅でパソコンの前に座るだけで参加できるため、出席率が高かったのです。

先生が、長い間百人一首の和歌を解説してくださったので、どの和歌も以前より思いや理解は深まったはずですが、私は相変わらず、かるたを思い通りにとれませんでした。

百人一首はこのように、ゲームとして、また秀逸な和歌の鑑賞として、いろいろな側面から私たち日本人の心や生活スタイルに浸透しています。年齢に応じて、和歌を鑑賞する力や理解する広がりも変化し、老若男女がそれぞれの場面で楽しめる、このような遊びを延々と続けてきてくださった先達に敬意を表したい気持ちになりました。

文化委員会企画

教養講座「日本文学逍遥」

【日時】原則として毎月第1水曜日 13:00～14:30

- ・4月3日(水) オンライン講座
- ・5月8日(水) オンライン講座
- ・6月5日(水) オンライン講座
- ・7月は関西・四国方面旅行のため休会 (P5 参照)

【講師】寺澤行忠常務理事(慶応義塾大学名誉教授)

* 寺澤先生の最新のご著書「西行 歌と旅と人生 (新潮選書)」が毎日新聞で紹介されました。また、専門家の評判が新聞各社、NHKの「読むらじる」にも取り上げられています。



会費納入・ご寄附のお願い

2024年度の会費の納入をよろしくお願ひいたします。同封の払込取扱票で、4/1～6/30の期間内にお振込ください。会員の皆様とともに草の根の国際交流をすすめていくためにはこの会費はとても大切です。ご支援のほど宜しくお願ひ申し上げます。

横浜日独協会へのご寄附も宜しくお願ひ致します。

※ご寄附いただきますと、確定申告時に最大50%の税制優遇を受けることができます。

会費・ご寄附は、下記口座へのお振込みにも受け付け致します。

- ◆ 郵便振替口座： 00240-3-138647
- ◆ ゆうちょ銀行： 店名〇九八 (ゼロキュウハチ) 番号2441596
- ◆ 横浜銀行： 横浜駅前支店 普通6416667

事務局のお手伝いして頂ける方を募集しています。

会計その他様々な事務的作業の補助です。専門知識は不要です。リモートでの作業も可能です。ご興味がある方は、電話又はホームページのお問い合わせフォームからご連絡ください。 <https://jdgj.sub.jp>

編集後記：今年もすでに四分の一が終わりましたが、これからも興味深い講演会や四国旅行が控えています。旅行中に神戸の日独協会との懇親会もあるそうで、楽しみにしています。皆様も是非、ご参加ください。(山口)

イベント予定

■ 4月 イベント：

- ・日時：4月20日(土) 15:00～16:30
会員以外の方も参加頂けます。定員60名
- ・会場：戸塚区総合庁舎3階 多目的スペース(中)
- ・講師：山川和子氏 フェイラー創業者
ホーヘンベルグ高齢者施設財団・リバブル(住みよい町)ホーヘンベルグ財団代表
- ・演題：「生活の中に芸術を！」
女性の心を虜にするフェイラーを世界ブランドに育て上げた秘密と歩みを創業者が語る。また、現在も取り組む日独のかけ橋となるプロジェクト(高齢者施設建設など慈善事業)について紹介する。
- ・参加費：1,000円

■ 5月 定期総会及びイベント (P4 参照)：

- ・日時：5月18日(土) 13:00(予定)～ 定時総会
(追って詳しいご案内をご送付致します。)
15:00～イベント 会員以外の方も参加頂けます。
- ・会場：横浜市技能文化会館 802 大研修室
(関内駅南口徒歩5分)
- ・講師：風間こずえ(華梢)氏
池坊東京清祥会支部長
ベルリンの高校でいけばな指導の他、ヨーロッパ各地でいけばな展示を行う
- ・演題：「池坊いけばなとその歴史」
- ・参加費：1,000円(イベント)

■ 6月 イベント：

- ・日時：6月15日(土) 15:00～16:30
- ・会場：未定
- ・講師：河野 純一 氏
横浜市立大学名誉教授。専門はヨーロッパ都市文化論、ウィーン方言論
『ハプスブルク三都物語』中公新書、『ウィーン 音楽の四季』音楽之友社など著書多数
- ・演題：「ウィーンを巡る物語」
～ウィーンの文化、音楽、方言など～
- ・参加費：1,000円

認定NPO法人横浜日独協会会報 発行 2024.4.1 (第70号)

所在地：〒247-0007

横浜市栄区小菅ヶ谷 1-2-1 地球市民かながわプラザ

NPOなどのための事務室内 事務局：齊藤 津澤

Tel: 080-7807-7236

E-Mail: jdg-yokohama2010@outlook.jp

会報編集責任者：山口 利由子

E-Mail: riyuko.yamaguchi@gmail.com

横浜日独協会ホームページ <https://jdgj.sub.jp>



法人会員

株式会社文芸社	ウインクル株式会社	ボッシュ株式会社	トルンプ株式会社	公益財団法人登戸学寮
ワインブティック伏見	モトスミ・プレーメン通り商店街振興組合			横浜国立大学ー成長戦略研究センター
株式会社コトブキ	神奈川大学	ケルヒャー・ジャパン株式会社	一般社団法人如水会 横浜支部	日独産業協会(DJW)
キャリア・デベロプメント・アソシエイツ(株)		富士・フォイトハイドロ株式会社		日本バウシュ株式会社